

# 議会報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所  
雲南市加茂町神原 733-4  
電兼 FAX 49-6373



## 九月定例会

平成三十年九月定例会が九月三日から二十六日まで行われ、初日の速水市長の所信表明で市立病院の松井譲病院事業管理者が来年三月末でご退任、後任には大谷順院長のご就任などが明らかにされました。本会議では条例、補正予算（総額八億八千五百五十万円）、二十九年年度決算認定九件等について質疑、表決を行いました。国民宿舎清嵐荘条例、二十九年年度水道事業会計利益の処分及び決算認定、その他二件については一名の反対がありましたが賛成多数、その他は全会一致で可決しました。

9月補正予算(新規・拡充分)

単位:千円

事業名	補正額 下段補正後	説 明
園芸振興補助金	1,995 1,995	学校給食野菜や産直出荷野菜の生産を目的としたハウスへの補助
農業水路等長寿命化 防災減災事業	12,000 57,400	老朽化した農業水利施設の機能回復、事故防止など
観光施設整備事業	52,401 56,351	龍頭が滝周辺の駐車場及びトイレの整備
家でも学校でもない 第三の居場所事業	29,990 29,990	ラメール和室を改修し児童への学習支援などを行う活動拠点の整備

※「家でも学校でもない第三の居場所事業」とは、諸事情により放課後児童クラブやスポーツ少年団等の活動に参加していない児童を対象に学習支援や生活支援を行う事業です。初年度から3年目までB&G財団が全額助成します。同財団によれば平成32年度までに全国で100カ所程度設置する計画との事です。ラメール2階の和室を改修して来年4月オープン予定です。

また、小職が取り組んでいる木次線の存続について鉄道事業法の改正を内容とする「意見書」、その他、地方財政の強化・充実求める「意見書」等も可決しました。

## 一般質問で取り上げられたテーマ

九月定例会の一般質問で取り上げられたテーマで多かったのが、①防災関連、②食の発信事業、③島根原発三号機新規規制基準に係る適合性申請、についてでした。

①防災関連については、今年は豪雪に始まり地震や豪雨、台風など自然災害が多く発生したことで防災に多くの質問が集中したと思われます。

②食の発信事業は、六次産業化の拠点施設として加茂と木次境にある「道の駅きすき」に隣接した場所に約七億円をかけて建設する事業です。これまでの説明では同事業は六次産業化の拠点施設とのことでしたが、事業採択されたのはJAしまね雲南地区本部による「県下最大級の産直市」でした。事業目的に変更があったのか、との視点から質問が集まりました。

③原発の適合性申請については、立地自治体である松江市ほか隣接自治体が全て容認姿勢を表明したことに関連した質問でした。

## 二十九年年度決算認定

議会の重要な仕事のひとつとして「決算認定」という手続きがあります。予算には目が向きやすく、認定は地味な印象ですが、①予算が適正に執行されたか、②行政効果や経済効果を測定し行政効果を評価、するという重要な意味があります。

二十九年年度決算が確定後、監査委員の監査を受け、その監査結果が市長あて「意見

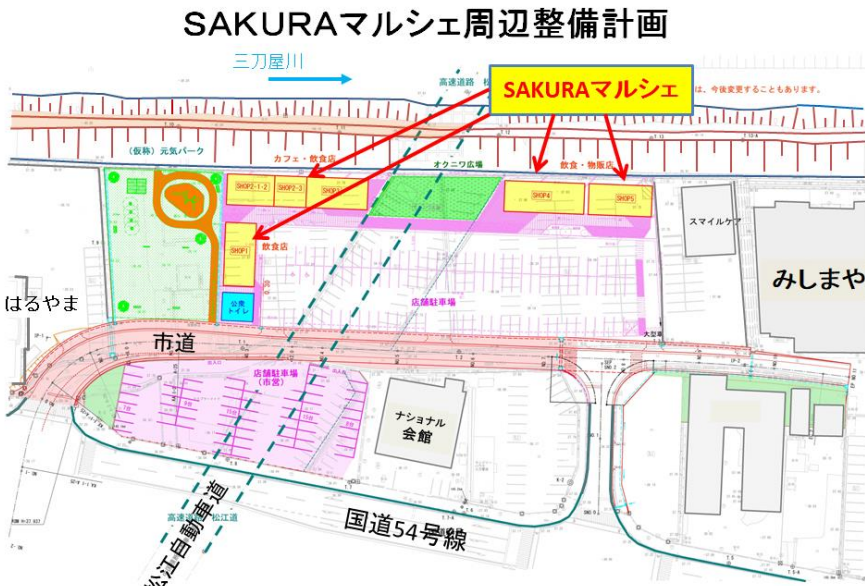
書」として報告されます。九月定例会では二十九年年度決算書にこの「意見書」が付され議案として提出されました。この議案を審議するのが「決算認定」です。「意見書」によれば財政指標の実質公債費比率、将来負担比率は、早期健全化基準を下回っているものの、今後、増加が予想され低減に努める必要があるとの指摘がありました。

なお、九月定例会に提出された二十九年年度決算は実質収支が黒字となっており、大きな問題はありませんでした。健全な市政運営がされるようチェック機能を果たすのも議会の重要な仕事です。

## 中心市街地活性化事業

雲南市中心市街地活性化基本計画に基づき雲南市の「商業の中心・まちの顔を作る」ことを目的として、平成二十八年から平成三十四年三月までの予定で取り組んでいる事業です。

計画区域は、雲南市役所、下熊谷バスセンター、JR木次駅を結ぶ約百三十ヘクタールですが、主要なエリアは「みしまや」



	28年	平成30年度	平成31年度	平成32年度
商業施設整備事業				
（仮称）SAKURAマルシェ	設計⇒	建設工事	オープン	
市街地整備事業				
市道6号線改良	設計・用地⇒	工事⇒	工事⇒	工事⇒ 完成
（仮称）元氣パーク	設計・用地⇒	工事⇒	完成	
公共トイレ	設計・用地⇒	工事⇒	完成	
（仮称）まめなか広場		設計・用地⇒	工事⇒	完成
市営駐車場	設計・用地⇒	工事⇒	完成	
ビジネスホテル整備事業				
ビジネスホテル		用地⇒	建設工事⇒	オープン

※商業施設整備事業、市街地整備事業、ビジネスホテル整備事業の概算事業費は1,072百万円です（除、ホテル建設費）。

また、このエリアには事業の目玉の一つであるビジネスホテル（六階建て、105室）が（株）共立メンテナランスにより建設され平成三十二年度中にオープン予定です。

隣から高速道路高架下付近で、この周辺に飲食店やビジネスホテル、広場、駐車場を建設するものです。飲食店はSAKURAマルシェ（仮称）という商業施設に六か店の入店を予定し、来年三月に完成予定です。

## 住民票等のコンビニ交付

来年十一月からサービス開始予定

住民票等のコンビニ交付とは、マイナンバーカードを使用してコンビニに設置されているマルチコピー機で住民票の写し等が取得できるサービスです。利用できるコンビニは、ローソン、ファミリーマート、セブンイレブンなど全国約5万3千店舗となっています。

コンビニ交付で受け取ることできる書類は、住民票の写し、印鑑登録証明書、戸籍証明書、所得証明書、課税証明書です。また、利用可能時間は午前6時30分から午後11時までです。サービスを受けるためには、事前にマイナンバーカードを取得しておく必要があります。詳しい手続きは、広報をご覧ください。本件は、小職が昨年十二月定例会の一般質問で取り上げました。



たかつさんの一般質問

除雪対策について

問

今年の二月の大雪を踏まえ、加茂町にも除雪機械の配備が是非とも必要だ。

答（建設部長）

四トンローダー一台を加茂町に転配、小型除雪機も一台新規購入し対応する。

学校行政について

問

コミュニティスクールの意義、今後の進め方について伺う。

答（教育長）

日本語で言えば学校運営協議会制度で、学校運営に地域の声を生かし、学校と地域住民が力を合わせて取り組むものだ。中学校単位で導入を進めている。

問

義務教育学校について伺う。

答（教育長）

義務教育九年間の系統性を確保した教育課程を弾力的に運営できる学校で、小中一貫と言えは通りがいい。

問

義務教育学校に移行したところは十年余りの歳月をかけて教員の相互交流など準備を十分に行ってきたている。課題も多かったと思われるがどう認識しているか。

答（教育長）

基本的に小学校教員は中学校では授業ができない、中学校教員は小学校で授業ができない。小学校、中学校の各教育課程の理解や系統的な指導など、教員の意識や相互理解が課題だったと聞いている。

問

本市内の小中学校は教員の相互交流の実績がないうえ、様々な課題が山積している。義務教育学校への取組は慎重に行われるべきと考える。見解を伺う。

答（教育長）

年齢構成上、今後、団塊の世代が退職を迎える。教育技術を身につけたベテランが、若い教員にスキルを伝えていくことが大事だ。教育研究会等で取組みを進めていく。

問

校舎の老朽化が進んでおり順次建替えしなければならない。ただ、義務教育学校とセットで考えてはならないと考える。

答（教育長）

義務教育学校についての方針も考慮したうえで、小中学校の改築計画、修繕を考えていく。

問

建て替えが差し迫っている学校がある。建て替えのロードマップについて伺う。

答（教育長）

平成二十九年度に学校施設の老朽度の調査を行った。今後、それを基に改築あるいは長寿命化の計画を策定していく。平成三十年度中には改築又は改修について教育委員会内で検討を進め、平成三十一年度には財政計画と調整し計画を策定する。

問

教育制度や教育設備の問題ではなく教育の質を如何に高めていくかが本質だ。

答（教育長）

第三次雲南市教育基本計画において教育目標として「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、未来を切り拓く、雲南市の人づくり」を掲げ、この実現をキャリア教育によつて図るべく、学校教育、社会教育を推進している。コミュニティスクールにより社会総がかりで教育体制の構築、小中一貫した教育課程による学校教育を進めていく。保幼小中高までの一貫したキャリア教育、「夢発見プログラム」の改善・充実を図り、小中高教員の協働による学力分析

と系統性を踏まえた学力育成に力を入れていく。

問

学校給食で使用される地元野菜は40%弱である。市内産の野菜の比率をどう高めていくか。

答（教育部長）

統合学校給食センターになると野菜生産者との距離が遠くなり、地元野菜の使用率低下が懸念される。野菜生産グループと給食センターとの連絡調整役としてコーディネーターの配置を予定している。

問

統合学校給食センターの稼働後、既存センターの従業員雇用はどうなるか。

答（教育部長）

調理業務を受託する業者を公募し、雇用など実施体制はその受託業者と協議する。

木次線対策について

問

トロッコ列車の後継機の交渉状況、進捗状況を伺う。

答（政策企画部長）

トロッコ列車の新造には、多額な経費が掛かり現実的に難しい。そのため既存車両の改造を基本に協議を進めている。現在のトロッコ列車は平成三十二年まで運行可能であるとJRから回答を得ている。平成三十三年から後継機が運行できるよう関係機関と協議を進めていく。

問

山陰線で運行されている「あめつち」に雲南市産の食材の利用を働き掛けてはどうか。また、「あめつち」の木次線への入線を働きかけてはどうか。

答（政策企画部長）

食事を提供する駅弁製造会社に問い合わせたところ、特徴ある食材で安定的に納品が可能であれば検討も可能との回答だ

った。また、運転線区については、本年度中は鳥取・出雲市間の運行だけである。他線区への乗り入れは、来年四月以降に検討すると聞いており、まず木次線への乗り入れが可能となるよう協議を進める。

問

三江線の二の舞とならないよう今後の行動計画をどのように考えるか伺う。

答（政策企画部長）

JR西日本、商工会、観光協会などで構成する木次線利用活用推進協議会で各種事業に取り組んでいる。「あめつち」やトロッコ列車、既存列車を活用してモデルツアーの開発、おきいずも女子列車等の企画列車などに取り組んでいる。

問

木次線の存続活性化のために法定計画である「地域公共交通網形成計画」が必要だ。策定されているか。

答（市長）

雲南市は、定めていない。平成三十一年度に検討開始し、三十一年度末までには方向性を出したい。

結び

網形成計画は、まちづくりと連動させて公共交通の将来設計を示すものであり、公共施設や市民バス、だんだんタクシーなどとともに木次線のあり方も考えるもの。交通政策基本法、活性化再生法等の立法趣旨を踏まえ対応していかなければならない。

今回の私の一般質問はやや専門的になった感があり、分かり難かったかもしれない。ただ、将来の雲南市像を考えると避けて通れない問題と思っています。皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。一方、議会ではICT化検討会議（タブレットを使用したペーパーレス化）、議員定数等検討会議が始まっています。議会も少しずつ変わりつつあります。仏作って魂入れず、とならないよう議員も頑張らねばなりません。